

どうとく の ひろば

No.20

テーマ
「道德科, スタート」

こころのひろば

「時を越えた友好の絆」<後編> [沼田準一]

特集 1

いまさら聞けない! 道德のキホン用語 [永林基伸]

特集 2

道德セミナー報告 道德の教科化に向けて

見てわかる! 道德

「勤労, 公共の精神」 「社会参画, 公共の精神」
「勤労」 [越智 貢, 上村 崇, 奥田太郎]

実践事例

小学校 道德科における魅力ある
教材開発の実践報告
～道德科授業と学校行事の関連付け～
[前 博毅]

中学校 仲間と学び合い, よりよく生きる
生徒の育成を目指して [岸原美佳]

こんなとき, どうする?

子どもに, 「正しいとわかりきったことを
なぜ考えなければならないの」と
聞かれたら? [龍神美和, 松原好広, 竹田敏彦]

地球の仲間からのメッセージ

外来生物 [長瀬健二郎]

本資料は, 一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り,
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索



未来をになう子どもたちへ

日本文教出版 / 秀学社



トルコ軍艦遭難慰霊碑の前で、取材を受ける沼田さん



「イラン戦友会」のメンバーと「日本・トルコ友好120周年記念事業」の式典にて



こころのひろば

「時を越えた友好の絆」

< 後編 >

特定非営利活動法人
エルトゥールルが世界を救う
特別顧問

沼田準一 (ぬまた じゅんいち)

プロフィール

1985年、自動車メーカーの技術者としてテヘランに赴任中、空爆に遭遇し、トルコの救援機で救出された日本人のひとり。現在はトルコ共和国と日本の絆を世界に広め、世界平和に寄与することを目標とした活動に精力的に取り組んでいる。



イラン・イラク戦争（1980～1988年）の真ただ中の1985年、空爆のはじまったテヘランから、トルコの救援機で救出された日本人215名のひとり、沼田準一さん。後編では、帰国後から現在に至るまでの歩みをお伺いしました。

ーテヘランからは無事にご帰国されたんですね。

帰国したのは1985年3月22日。テヘランは戦火と報道されていたので、成田空港では技術指導のために同行してもらった技術者の家族にお詫びしました。

少しずつ不安や恐怖は薄れてはいったものの、私の心の傷は簡単には癒やされません。テヘランで起きたこと、トルコに助けられたことも、詳しいことは話しませんでした。恥ずかしい気持ちもあったと思います。どうしてトルコが日本人を助けてくれたのか、その背景もわからないまま年月が過ぎていきました。

ーエルトゥールル号のことをお知りになったのは、そのあとですか？

23年後の2008年10月17日だったと思います。つけっぱなしのテレビにたまたま目がいくと、1890年に和歌山県串本町大島の沖合で沈没したトルコの軍艦「エルトゥールル号」のことを紹介していたのです。大島の人々を中心に、自分たちの生活を犠牲にしながらも、69名の乗組員を救助したお話でした。そして95年後、この献身的な活動に恩義を感じていたトルコが、テヘランで身動きがとれなくなった日本人を救

出するために、救援機を派遣してくれたこと。さらに驚いたのがトルコ人よりも優先して日本人を助けてくれたというものでした。

このときに初めてトルコが救援機を派遣してくれた背景がわかり、エルトゥールル号のことを知らなかった自分を責め、とにかくショックを受けました。

私は、これを機に日本とトルコを知りたいと思い、いろいろな資料を集めて読みあさりしました。そして「トルコの人々に直接お礼を言わなければ、なにか恩返ししなければ」と自分の気持ちが収まらず、駐日トルコ共和国大使館に連絡をとったのです。

ーすごい行動力ですね。それで直接お礼を？

そうせざるを得ない気持ちになっていましたね。大使館に連絡をとり、受付の方に「1985年にトルコ航空*機で助けていただいたお礼を言いたいので、大使館に伺わせていただけませんか」とお伝えしました。するとすぐにお返事をくださり、「12月10日に大使館まで来ていただければ、参事官がお会いします」ということでした。

そして約束の日、私にとって外国の大使館への訪問は初めてのこと。なにを準備すればいいのかわかりませんでした。ちょっとした花束を持って参事官にお会いしました。参事官に「こうして生きていられるのは、テヘランからトルコ航空で助けていただいたおかげです。命の恩人としてトルコにお礼を言わせていただきたい」と、25年経ってやっとトルコの方に直接お礼が言えた瞬間。こんな幸運な日があると考えると考えてもいませんでした。

ーそのあともいろいろ行動をされていますね。

そうですね。トルコ大使館で1999年のトルコ北西部大地震の復興状況なども聞きましたので、帰宅してからインターネットでいろいろと調べてみました。すると、トルコの地震で遺児や孤児になった子どもたちを日本に招いて、1995年の阪神淡路大震災で被災した子どもたちと同県の子どもたちと交流する活動をしている団体がありました。この活動ならトルコの人々に直接支援ができるかも知れないと思い、すぐに寄付の手続きをお願いしました。

次はトルコが日本に対して強い親愛の気持ちをもった原点ともいえる、エルトゥールル号遭難事故です。献身的な救助活動をしてくれた串本町の人々にお礼を言いたいと思い、串本町に寄付を申し込みました。偶然にも、私は「串本町ふるさとのまちづくり応援寄付」第一号となったのです。すると地元で話題となり、新聞社からの取材を受けました。私は寄付までにいたる経緯、1985年にテヘランからトルコ航空に助けてもらった当時の状況や心境も話しました。

そうしたこともあり、2010年、日本とトルコの友好関係が始まって120年という大きな節目の年に、串

本町が企画する「日本・トルコ友好120周年記念事業」の式典に私を招待してくださったのです。そして、この一大イベントで、トルコ航空による日本人救出劇の体験談を私に話してほしいという依頼があり、これは、串本町の皆さんにお礼を言えるチャンスをいただけたと思いました。トルコに命を助けられたときに結成した「イラン戦友会」のメンバーにも声をかけ、式典とともに感謝の気持ちを伝えることができました。

この式典が和歌山県で報道されたこともあり、日本とトルコの友好活動をしている団体から声をかけていただくようになりました。その中のひとつに、エルトゥールル号遭難・救出の物語を映画化することを目的に設立された団体「エルトゥールルが世界を救う」があったのです。

ー映画までできるということは、トルコと日本は本当に親交が深いんですね。

串本町の町長と映画監督が熱心にトルコに働きかけをされて。その熱意が伝わったのでしょう、トルコ側でも「この映画はいい」「日本と合作でやりたい」という気持ちになったそうです。さらに、両国政府の支援もあり、友好125周年の2015年に日本・トルコ合作映画「海難1890」の両国での公開が実現しました。

ー現在はどのような活動をされていますか？

串本町の人々がトルコの人々を助けたことから、125年以上も続いてきた友好の歴史は、双方の国同士が「真の人間愛」をもった「真の友情」に支えられているのだと思います。その友情からトルコに命を救われた私ができることといえば、これまでの体験を話すこと。できるだけ多くの人に聞いてもらえるようにどこへでも行っています。

活動のひとつに、エルトゥールル号遭難・救出とトルコ航空の日本人救出を音楽で表現されている、和歌山県の作曲家・指揮者の向山精二むかいやませいじさんのコンサートに私も参加し、体験談をお話ししています。2010年7月27日のトルコでのコンサートにも同行し、ようやくイスタンブールを再訪問できました。そして、コンサートに来場された1200人を超えるトルコの方々に、お礼を言うことができたのです。さらにサプライズとして、テヘラン脱出時のトルコ航空の機長、機関長、キャビンアテンダント、そしてトルコのオザル首相もりなが（当時）に救援機の派遣要請をしてくださった森永堯たかしさんと壇上で握手を交わしました。イラン脱出から25年経って命の恩人たちとの再会も叶ったのです。

今後もヨーロッパやアメリカでもコンサートを予定しているので、私も参加して「真の友好、友情」が世界平和にいかにか大切かということの世界中に広げ、国同士の友好につなげていきたいと思っています。

*トルコ航空……現在のターキッシュ エアラインズ。

いまさら聞けない！ 道徳のキホン用語

元東京都葛飾区立堀切中学校 校長 永林基伸

新任の先生、今まで道徳に縁の薄かった先生のために、おもに道徳科でしか使わない、でも道徳科ではよく使うからとっても大事！ そんな用語を集めてみました。

な 内容項目

学校全体で行う道徳教育や道徳科の授業で、取り上げる内容を、短い文章で平易に表したもののA-(1)「○○、□□」のように番号とキーワードで示されることが多い。

学校における道徳科の指導は、「よりよく生きるための道徳性を養う」ことが目的であり、それぞれの発達段階に即して身につけたい道徳的価値を含んだ内容に基づいて行われます。小学校では低学年19、中学年20、高学年22、中学校では22の項目があり、道徳科の授業を行う際は、これらの内容を生徒自らが理解し、多面的・多角的に深く考えられるよう、指導の工夫をする必要があります。

(深めるワード：「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第3章 道徳科の内容」)

ど 道徳的価値

「一人ひとりがどのような人間になればよいか」「どのような人間になることをよしとするか」ということを考えるとき、手がかりとなる生き方の理念や社会規範のこと。

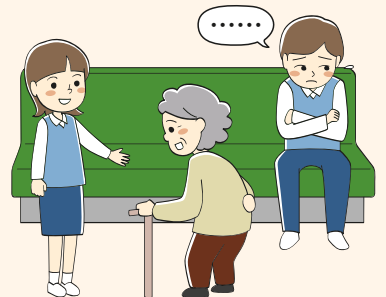
道徳科の目標は、「道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、…道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と学習指導要領にあります。学校教育では、児童、生徒一人ひとりが道徳的な価値観を作り上げるために必要なものを「内容項目」として、取り上げています。たとえば、「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第3章 道徳科の内容」のA-(1)「自主、自律、自由と責任」では、「誠実」がこれらの内容に深くかかわる価値であると示されています。

(深めるワード：儒教、古代西洋哲学など)

ど 道徳性

道徳的な行いをする、道徳的な行いをしようとする意思の高まりや、そうしようとする人間の傾向であり、人間としてよりよく生きようとする特性のこと。

道徳的な行いをする、例えば、「お年寄りに席を譲る人」は、**道徳性が高いと見られます**。しかし、道徳的な行いをしようとする意思の高まりは、どうやって知ることができるのでしょうか。人間の心のありさまは、外からははっきり見ることはできません。まして、道徳的な行為は、道徳的な判断と共に、「思い切って」などと、**道徳的な判断以外の要素**でなされることもあります。道徳科の授業には、**そのような自分とどう向き合い、人間としての生き方を求めるのかという深さがある**のです。(深めるワード：コールバーグ、大平勝馬)



じ 自我関与

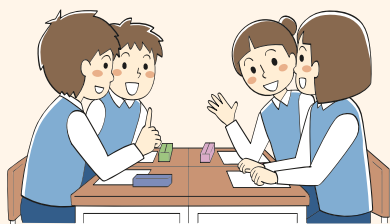
道徳科の授業を教材を用いて行うとき、教材の登場人物の判断や心情を、児童、生徒一人ひとりが自分との関わりで深く捉え、自分自身にとって切実な問題として、**道徳的価値を自覚すること**。

読み物教材を用いて行う授業では、「自我関与」中心の学習が一般的です。およそ、「自我関与」の無い道徳科の授業はあり得ません。今回の学習指導要領の改訂にあたり、文部科学省の報告で、あえてこれに触れているということは、これまでの指導ではじゅうぶんに行われていないと捉えられます。教材に含まれる人間性や道徳的価値をしっかりと捉え、他の人と話し合い、意見交流をしながら、最後は**自分自身と向き合い、どう生きるかを創出していく**ことが求められます。(深めるワード：社会心理学)

も 問題解決的な学習

日常の活動や教材の中から、自ら問題や課題を見つけ、それらを道徳的価値に照らし多面的・多角的に考察し、主体的に判断し、互いに異なる意見や考え方に耳を傾け話し合い、自らの生き方に対する考えを深める学習のこと。

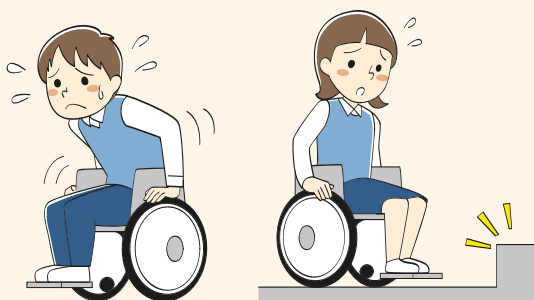
例えば、道徳科の授業で「あるできごとにおける問題」をどうしたら解決できるかというような**問題の解決方法を探すことは、問題解決的な学習とは呼びません**。それは、道徳科の目標が、「一人ひとりのよりよい生き方を模索する」ことにあるからです。教材の中から、児童、生徒たちにとって「なぜそうなの」「もっと考えたい」というところを課題として、「**よりよく生きるにはどうしたらよいか**」というような問いが生じる指導の工夫が求められます。



た 体験的な学習

日常生活や学校生活における体験を生かして授業を構成したり、疑似体験的な活動（模擬体験や役割演技）をしたりすることを通して、実際の問題を実感を伴って理解し、考えを深める学習のこと。

例えば、道徳科の授業で、職場体験やボランティア体験などの体験活動を生かし、体験を通じて感じたことや考えたことを基に対話を深めます。また、共生できる社会をつくるという内容を学び合うとき、アイマスクや車いすの体験を実際に行い、感じたことや捉えられた**問題を基に深く話し合うこと**などが考えられます。従って、意見の交流や深い学び合いの無い、体験と感想だけの授業は道徳科の授業としては不完全といえます。



け 現代的・社会的な課題

現代社会において、解決の難しい問題や答えの定まっていない課題のこと。これらについて、理解を深め、自分自身との関わりで捉え、その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てることが大切である。

例えば、「中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 第4章 第3節 6」の後段「生命倫理や**社会の持続可能な発展**を巡っては、…様々な道徳的価値に関わる葛藤や対立がある。…『相互理解, 寛容』、『公正, 公平, 正義』…などについては、現代的な課題と関連の深い内容であると考えられ、…」といった部分に注目すれば、これらについては、難しい課題ではありますが、発達の段階に応じて、多面的・多角的な見方や考え方を引き出し、**対立を乗り越え、協働して解決していこうとする姿勢**が求められています。
(深めるワード：学習指導要領解説 特別の教科 道徳編)

E ESD

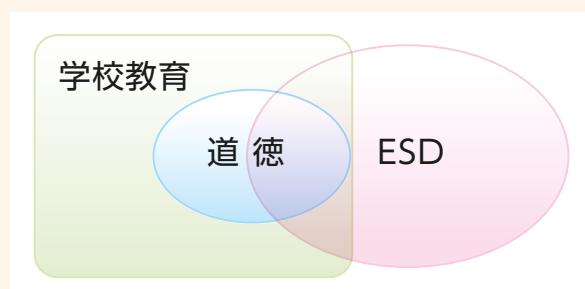
持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development) のこと。ユネスコの提唱する教育で、私たちとその子孫がこの地球で生きていくことを困難にするような問題について考え立ち向かい、解決するための学びのこと。

とくに次の2つの観点が大切です。

1. 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育む。
2. 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育む。

すでに小学校・中学校の教科等で行われており、**今回の学習指導要領の改訂では、特別の教科 道徳編でも取り組むことになりました**。例えば、中学校の内容項目B-(9)「相互理解, 寛容」は、人間の関係性について直接考える内容です。

(深めるワード：文部科学省日本ユネスコ国内委員会)



道徳の教科化に向けて ～小学校と中学校の9年間の まなびと評価～

小学校では、「特別の教科 道徳」がいよいよスタートしました。また中学校では、来年平成31年度からの実施に向け、準備が本格化しつつあります。

そのようななか、弊社では大阪、名古屋で道徳セミナーを開催しました。休日にもかかわらず、両会場とも予定人数を大幅に超える先生方にご参加いただき、講師陣への質疑応答も活発に行われました。ありがとうございました。



大阪会場 平成29年12月24日（日）



名古屋会場 平成30年1月28日（日）

講演

畿央大学大学院
教授 島 恒生 先生

大阪 名古屋

道徳の教科化に向けて
～何を準備するか～



目前にせまった道徳の教科化。これに向けて以下の6つの項目に分けて、どのような準備が必要か、事例を挙げながら丁寧に解説いただきました。

- ①「道徳」の再確認→「道徳性」を育てるのが道徳
- ②価値観の準備→プラス志向の発想（真価を認めて励ます「アプリシエーション」の評価を）
- ③指導観の準備→「学習者は子ども」という考え方
- ④道徳の内容の理解の準備→発達の段階や内容の視点を考えて
- ⑤授業技術の準備→活動の意味や意義を生かして
- ⑥推進体制の準備→チームとなって、みんなで取り組む

研究発表

関西外国語大学
教授 太田 和男 先生

大阪

小・中連携を通じた 道徳授業の 学びと評価について

道徳教育での小・中連携について、中学校校区で「育てたい子ども像」を共有することなど、さまざまな取り組みについてご提案。またそれを踏まえ、道徳の教科化に向けて先生方の関心が高まった「評価」の仕方について、京都市の例を挙げつつ具体的に解説いただきました。



愛知教育大学
教授 野平 慎二 先生

名古屋

想像力を育む 道徳の授業と評価

「多面的・多角的に考え、議論する」について、「泣いた赤おに」「くもの糸」を例に、登場人物それぞれの視点から見た「物語論的なアプローチ」をご提案。子どもの育つ力を信じて待つ、見守ることを通じた、「道徳科の評価のあり方」について解説いただきました。



豊能町立東ときわ台小学校
教諭 龍神 美和 先生

大阪 名古屋

小学校道徳 授業の展開例 授業のアイデア

道徳の時間のなかで、子ども自身が納得するような授業にするためには、どのようなことが大切かについて、いくつかの教材を例に挙げながら解説。ねらいを明確に、具体的にもち、それにむかって「考えてみたい」「言ってみよう」「きいてみたい」という授業にする方法をご紹介します。



アンケートより

セミナー参加のみなさまから多くの声を寄せていただきました。その一部を紹介します。

島先生のお話では、授業を準備することなど、特に1時間1時間どう考えて、授業を進めていくのか具体的に整理された話が聞けてとてもよかったです。

大阪

島先生のお話を初めて聞きました。すごく実践的で現場を知り尽くした上での具体的な話を聞くことができ非常に勉強になりました。現状の道徳の授業の上手くない点やズバリと指摘していただき、スッキリすると共に、島先生の提案内容を広めていかなければならないなあと感じました。

名古屋

一人の教師で取り組むのではなく、学校全体・中学校校区のブロックで子どもたちの成長を考えていくことが大切であると感じました。

大阪

太田先生の軽快な語り口で道徳の評価、小中連携、学校と地域（保護者）との連携など多岐にわたってお話くださり、大変わかりやすく、勉強になりました。

大阪

野平先生のお話は、教務主任の立場である自分がどういう心構えで道徳を迎え、先生方に声を掛け、校内の研修を考えていけばよいか、わかりやすく教えていただきました。

名古屋

野平先生の考え方に共感できました。道徳科で育てるものを多くの教員に理解してもらえるように、日々学校現場で頑張ろうと思えました。

名古屋

不安に思っていた教科書の「学習の手引き」ですが、利用方法がわかり、また、ときにはワークシートを自分で作成してもよいこともわかり、大変参考になりました。

大阪

今後も龍神先生のような、授業のアイデア、道徳ノートの活用方法、評価の仕方などについてのセミナーを多数開いていただけるとありがたいです。

名古屋

今後の開催にご期待ください！

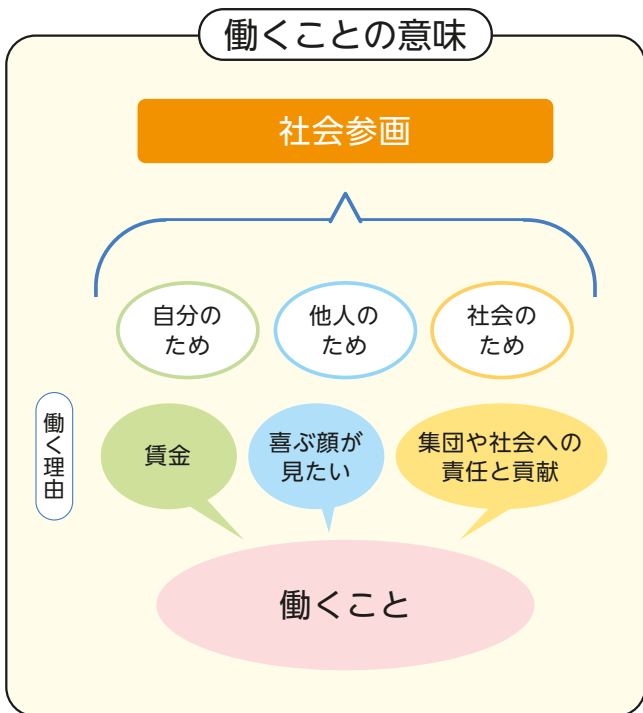
「勤労, 公共の精神」

「社会参画, 公共の精神」「勤労」

働くことの意味

働くことにはどのような意味があるのでしょうか。すぐに思い浮かぶのは、お金を得る手段だという考え方でしょう。確かに、私たちは働いて得たお金を暮らしの糧にしています。働かなければ、生活することはできません。

この考え方からは、お金と勉強とを直結させる次のような意見も出てきます。すなわち、「働くのであれば、大企業のように、高収入を得ることができる会社に就職すべきであり、そのためには、小学校から高等学校まで懸命に勉強し、偏差値の高い大学に入らなければならない」という、ときおり耳にする意見です。この種の意見の是非は別にしても、お金を得ることが働く理由の一つであることは否めません。しかし、働くことの意味はそこにしかないのでしょうか。



働くことと他者

お金につながらない例を考えてみましょう。たとえば、だれもが経験したことのある家事の手伝いです。なぜ、私たちは、お金をもらえないのに手伝いをするのでしょうか。多くの人は、家族が喜んでくれるからと答えるにちがいません。私たち人間には、家族や身近な人の喜びを自分の喜びとするメカニズムが備わっています。彼らの喜ぶ顔が私たちが働こうとする理由になることは間違いありません。

しかし、他者のために働くことがつねに自分の喜びをもたらすとは限りません。たとえば、学級当番。学級には、給食当番や掃除当番など児童生徒がしなければならない多くの仕事があります。これらの仕事を喜んで行ったという経験をもつ人は少ないかもしれません。学級当番と手伝いとの違いはどこにあるのでしょうか。

学級当番と他者

学級当番は、家事の手伝いとは異なり、特定の人のために働くものではありません。学級当番になった人は学級全体のために働きます。だから、当番の仕事によって特定の人が喜んでくれるわけではありません。しかし、この学級当番が学級の日常的な営みを支えています。花の水やりや掃除の当番をさぼる人がいれば、たちまち困った問題が生じます。だれかがそれらの仕事をしっかり行わなければ、学校生活は円滑に進まないのです。

それゆえ、学級当番の仕事は、家の手伝い以上に、責任や役割といった事柄に深く関係しています。このことが理解できなければ、学級当番は興味のもてない苦しい仕事でしかありません。

しかし、学級をよく観察すると、当番の中に、嫌な顔一つせず黙々と仕事に打ち込む人がいることに気づ

監修：桃山学院教育大学 教授 越智 貢

共著：福山平成大学 教授 上村 崇

南山大学 教授 奥田太郎

きます。それどころか、どのような当番の仕事にもやりがいや誇りをもって取り組んでいるように見える人さえいます。そのような人たちは、働くことの意味をより深く理解している人にちがいません。

います。とりわけ、集団や社会の中でそれぞれが自分の役割を果たすという社会参画の意味を見落とすべきではありません。労働に勤しむこと、すなわち勤労が、社会に貢献すると言われるのはそのためです。

集団の中で働くことー社会参画

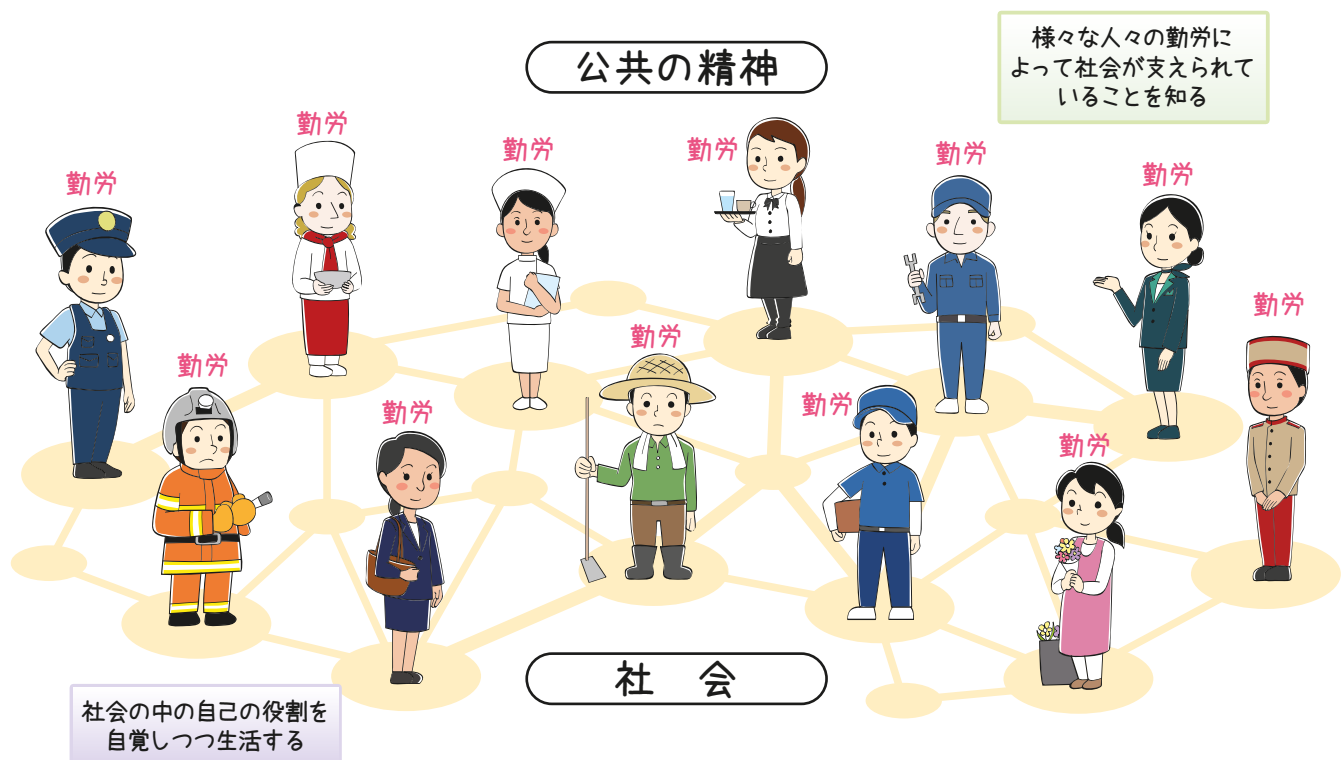
私たちは、集団のなかで働くことを通して、働くことには、お金を得ることや相手の喜ぶ顔とは異なった理由があることを知るようになります。それは、端的に言えば、自分が属している集団に貢献するという意識です。責任感や役割の自覚はこの意識からもたらされます。そして、そうした意識もまた働くことの大きな理由です。先の学級当番の仕事に真摯に取り組んでいた人は、学級という集団に自分なりに貢献しようとする意識、すなわち社会参画の自覚をもっていた人だと解することができるでしょう。

このように、働くことには、様々な意味が含まれて

勤労と公共の精神

私たちは、勤労を通して、他の人々とともにこの社会を支えています。そして、それは取りも直さず、社会の成員それぞれが他の成員の勤労によって支えられていることでもあります。そうした成員どうしのつながりと支え合いが理解されれば、やがて成員の中に公共の精神と呼ばれるものが醸成されはじめるにちがいません。

この意味で、学級当番は公共の精神に至るための糸口だといっても過言ではありません。学級は社会の縮図にほかならないのです。



道徳科における魅力ある教材開発の実践報告 ～道徳科授業と学校行事の関連付け～

東京都台東区立忍岡小学校 主任教諭 前 博毅



普及活動に取り組み
古城さん

- ・ 障害者スポーツを
発展させたい。
- ・ 障害者と健常者の
壁をなくしたい。

自分らしく、
よりよい
生き方とは



アンプティサッカー
との出会い

- ・ ゼロからサッカーを
かんばるぞ。
- ・ 今まで以上に
かんばりたい。



五歳のとき
右ひざから下を切断
サッカーとの出会い
将来は日本代表

- ・ 公式戦に出られない
- ・ 目の前が真っ暗
- ・ サッカーをやめよう
生きていくのが
つらい

第七回 道徳の時間

主題名 自分らしく生きる

教材名 アンプティサッカーと
ともに生きる

1 はじめに

道徳授業地区公開講座や公開授業などで、外部講師を招いた講演会や実技体験などを、学校行事として開催することがあります。いよいよ2年後に迫った「東京2020オリンピック・パラリンピック」に向けて、各校でもオリンピック教育の一環として、スポーツ選手をお招きする機会が増えているのではないのでしょうか。オリンピック・パラリンピックメダリストをはじめとするスポーツ選手をお招きし、お話を伺ったり演技などを実際に見させていただいたりすることは、児童にとって大変貴重な経験と言えます。その貴重な経験を、その時間限りのものとせず、児童にとってより効果的なものにするために、道徳科授業との関連付けができないか。その可能性を探りました。

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月）の第3章「特別の教科 道徳」には、「児童の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用に努めること。とくに、生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこと。」（第3指導計画の作成と内容の取扱い3（1））との記述があります。今回は、これらを根拠として開発した教材を活用した道徳科授業実践と、外部講師を招いた学校行事との関連実践報告です。

2 教材について

本教材は、アンプティサッカー（上肢または下肢を切断した障害のある選手がプレーするサッカー競技）の普及活動に取り組む、古城^{こじょうあきひろ}さんを取り上げた自作教材です。1983年に沖縄県で生まれた古城さんは、5歳のときに交通事故で右ひざから下を切断する手術を受けました。サッカーとの出会いから挫折、そしてアンプティサッカーの普及活動に取り組む現在の古城さんの「よりよく生きようとする」強さや気高さに気付かせる内容となっています。

※教材全文は弊社 Web サイト「my 実践事例」掲載。

3 考察

5校時に、本教材を使った道徳科授業を実施し、6校時に、学校行事として古城さんご本人からお話を伺ったり、アンプティサッカーの実技体験をさせてもらったりしました。授業後の体験とあって、子供たちはいつも以上に生き生きとした姿を見せてくれました。年間指導計画に基づく、計画的な指導の必要性は言うまでもありませんが、今回の実践で、道徳科と学校行事の関連付けが非常に効果的であることが分かりました。教材開発を含めた道徳科授業と学校行事の関連には大きな可能性が秘められています。今後も、より深い学びとなる道徳科授業実践を行っていきたいと思います。

展開例

主題名 自分らしく生きる

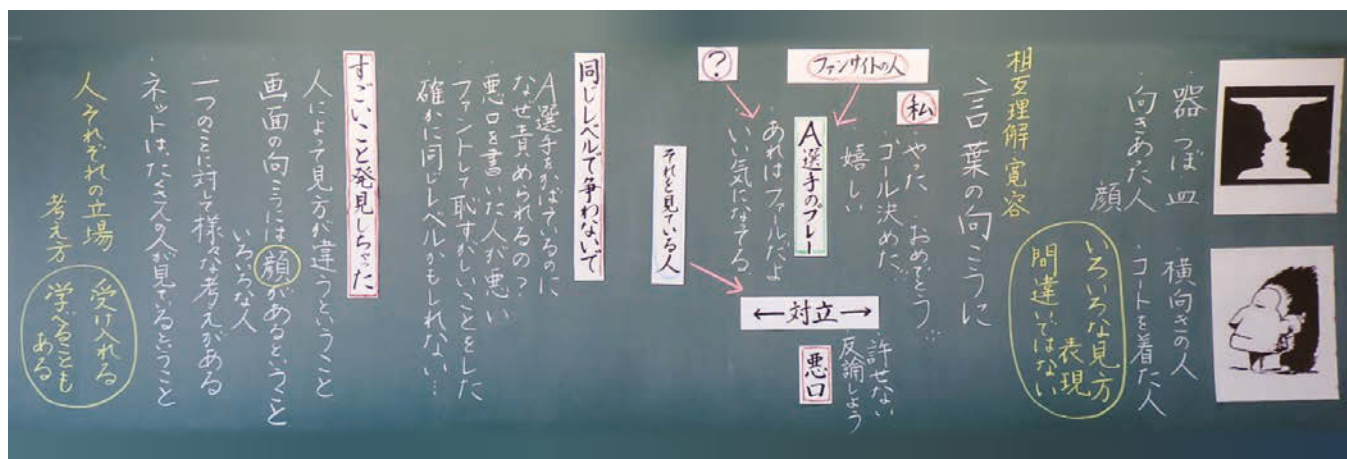
教材名 アンプティサッカーとともに生きる
(自作教材)

ねらい よりよく生きようとする古城暁博さんの強さや気高さを理解し、自らもよりよく生きていこうとする心情を育てる。

	学習活動 (◎中心発問, ○主な発問, ・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>1 古城暁博さんについて知り、「自分らしく、よりよい生き方」とはどんな生き方なのかを考える。</p> <p>○古城暁博さんの姿から、「自分らしく、よりよい生き方」について考えましょう。</p>	<p>◇古城暁博さんの写真や映像を見せ、児童の教材への関心を高める。また、道徳的価値を提示することで、授業のねらいを明確にする。古城さんがサッカーをしている様子を提示し、教材への導入を図る。</p>
展開	<p>2 教材「アンプティサッカーとともに生きる」を読み、話し合う。</p> <p>○公式戦に出場することができなくなった古城さんは、どのような気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目の前が真っ暗だ。 ・もうサッカーをやめるしかない。 ・このまま生きていくのはつらい。 <p>○アンプティサッカーに出合った古城さんは、どのような気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・またゼロからサッカーをがんばるぞ。 ・今まで以上にがんばりたい。 ・新しい目標に向かってがんばっていこう。 <p>○古城さんは、どのような気持ちでアンプティサッカーの普及活動に取り組んでいるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの障害者を勇気づけたい。 ・障害者スポーツを発展させたい。 ・障害者と健常者の壁をなくしたい。 <p>◎古城さんのどんなところが「自分らしく、よりよい生き方」だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体は不自由でも、自分にできることを見つけ、常に挑戦しようとする姿。 ・くじけそうになっても、あきらめないで練習を続ける姿。 ・自分のことだけでなく、障害者全体のことを考えている姿。 <hr/> <p>3 今までの自分自身の生活を振り返り、ねらいとする道徳的価値について考えを深める。</p> <p>○あなたにとって「自分らしく、よりよい生き方」とはどんな生き方でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを大切にすること。 ・生きがいを感じて生きること。 ・自分に負けないこと。 	<p>◇義足で公式戦に出場することができなくなった古城さんの心情に共感させ、人間は誰しも弱い面があることを理解させる。</p> <p>◇希望がもてるようになった古城さんの心情に共感させ、古城さんの強さに気付かせる。</p> <p>◇自分のためだけでなく、みんなのために競技や普及活動に取り組む古城さんの気高い思いに共感させる。</p> <p>◇導入での発問や、本時の学習を振り返り、ねらいとする道徳的価値から外れないようにする。</p> <p>◇スポーツ選手としてではなく、古城さんの強さや気高さといった生き方そのものに焦点を当て、自らの生き方についての自覚を高めさせる。</p> <p>☆古城さんの強さや気高さを理解し、自らもよりよく生きていこうとする心情を育てる。</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇身近にも「自分らしく、よりよい生き方、誇りある生き方」をしている人がいることに気付かせる。</p>

仲間と学び合い、よりよく生きる生徒の育成を目指して

愛知県弥富市立弥富中学校 教諭 岸原 美佳



1 ねらいとする価値について

個性は決して一人で伸びるものではなく、他に認められながら伸びるものである。互いの異なる個性を見つけ、違うものを違うと認め、ときには許す私心のない寛容の心、偏狭なものの考え方のない広い心を育てることが求められる。

「今の自分さえよければ」といった「閉じた個」ではなく、自己と対話を重ね自分自身を深めつつ、他者とともに生きるという自制を伴った「開かれた個」を育てていきたい。

2 指導の工夫

(1) 個人→グループ→個人で考えを深める

インターネットの書き込みを通して、あることを発見した主人公。何を発見したのかを小集団のグループで考えさせる。自分は良いと思ったことでも、そうでないと感じる人がいること、さらにはそれを見ていた人がどう感じているかなど、いろんな人の立場に立って話し合わせる。

個人追究のあとにグループ活動を通して、いろいろな見方や考え方、感じ方があることに気付かせ、個々の考えをさらに深めさせたい。

また、安易に「インターネットへの書き込みは怖い」という結論に至らないようにするために、ねらいを意識づける導入とともに価値項目を板書しておく。

(2) 教材提示の工夫

① 状況をリアルな形で再現

実際の掲示板をイメージできるような、同じような意見で埋め尽くされ盛り上がっている様子、反論に反論を重ねてみ合っている様子、それを冷めた目で見ている第三者の様子をそれぞれ提示する。文字だけを眺める場面をつくり、PCの画面に向かって相手とやりとりしている主人公の気持ちに迫れるようにする。

② 対極的な見方のできる板書

1つの事象に対して、感じ方や考え方が異なる人がいることを印象づけるために黒板を分け、対極的な見方ができるようにする。

(3) ねらいを意識づける補助教材

① だまし絵「ルビンの壺」

本時の導入では、多様な見方があることに気付かせるため、「ルビンの壺」やなかなか見つけることのできないだまし絵を用意した。生徒の関心を引きつけるのと同時に、人によって見え方が違うことを体感させて、展開への動機づけとしたい。終末に使っても効果はあると思われる。

② 終末の説話

大岡 信の『言葉の力』や『古今和歌集仮名序』を用いてもよい。国語の教科書に掲載されている作品は、生徒にも馴染みがあり、改めて言葉の向こう側にいる人のことや言霊について考えることにつながると思われる。

展開例

主題名 認め合い学び合う心を

教材名 言葉の向こうに
(『私たちの道徳 中学校』文部科学省)

ねらい

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていく。

段階	学習活動 (◎中心発問, ○補助発問, ・予想される生徒の反応)	◇指導上の留意点
つかむ	<p>1 ねらいとする価値を意識した絵を提示する。</p> <p>○「だまし絵」から2種類の絵を見つけ、物事の見方について考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな見方があるということ。 ・自分だけでは気づかないこともあること。 ・どれも間違いではないこと。 	<p>◇2種類の見方が比較的容易にできる絵と、片方の絵にとらわれすぎるとなかなかもう片方の絵が見えない絵を用意する。</p>
考える・深める	<p>2 教材「言葉の向こうに」を読んで話し合う。</p> <p>○好きな選手の悪口を書かれた主人公はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンサイトなのに悪口を書くななんて許せない。 ・嫌いなら見なきゃいいのに。 ・悪口を書いた人たちに反論してやる。 <p>○反論したことに対して、「同じレベルで争わないで」と言われた主人公はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A選手をかばっているのに、なぜ責められるのか。 ・悪いのは悪口を書いた人なのに。 <p>◎「すごいこと発見しちゃった」主人公は何を発見したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人によって見え方が違うこと。 ・画面の向こうには顔があること。 ・1つのことにもいろいろな人の考え方があること。 ・ネットはたくさんの人が見ていること。 <hr/> <p>3 自分の生活を振り返る。</p> <p>○今日の学習から学んだことをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人それぞれの立場があるし、考え方も違う。 ・自分の考えを押しつけるのではなく、いろんな見方ができるといい。 ・違う意見の人もいるから、学べることもある。 	<p>◇共感し、感動していた主人公の気持ちが徐々に怒り、憤りに変化していることを確認する。</p> <p>◇想像しやすいように電子黒板に実際の掲示版のような文字を表示してイメージさせる。</p> <p>◇まずは個で考え、小集団での交流をした後、全体で意見を共有する。</p> <p>◇「画面の向こうに顔がある」というところから、書き込みの何気ない言葉の向こう側にあるものを考えさせる。</p> <hr/> <p>◇意見の交流、共有から改めて何を発見したのかを書かせる。</p>
見つめ直す	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇『言葉の力』(大岡 信)の一部を取り上げ、言葉は本来、言葉を発したその人自身を表していることを伝える。</p>

こんなとき、どうする？

今回の
テーマ

子どもに、「正しいと わかりきったことをなぜ考えなければ ならないの」と聞かれたら？



子どもたちと接する中で出てくる、「こんなとき、どうする？」。
道徳教育をより輝かせるためのヒントを、先生方に教えていただきました。

「いろいろな感じ方、考え方に会おう」

豊能町立東ときわ台小学校
教諭 龍神 美和

「そのことは、本当に正しいのかな。どうして、そのことが正しいと思うのか、どうして、そのことがよいと思うのかの理由は、たくさんあるし、みんなちがいますよね。だから、なぜそのことがよいのかをみんなで、話し合ったり、考えたりして、自分の考えを広げたり、深めたりしていくのですよ。きっと、新しく学ぶことや気づくことが、たくさんありますよ。」と、私なら答えると思います。

けれど、このような質問がでてくるといことは、もしかすると、普通の授業の中で、「正しいとわかりきったこと」しか扱うことができていないのかもしれないかもしれません。子どもたちにとって、新しい学びや気づき、学んだ実感のある道徳科の授業づくりを進めていきたいですね。

心の弱さ、醜さに少しでも流されないようにするためです

江東区立大島南央小学校
校長 松原 好広

子どもの核心をついた質問だと思います。教師は、真摯な態度で応えてあげたいと思います。そこで、道徳授業が、「心の弱さ、醜さに流されないようにするための時間」ということを前提に、次のような場面を考えてみました。

教師：じつは先生、正しいとわかりきったことが、いざとなるとできないことがあるのだよ。

子ども：えっ、先生なのに、できないことがあるのですか？

教師：心の弱さというか、醜さというか、そんな一時の感情に流されてしまうのだよ。

子ども：先生ですさえできないのだから、私ができないのも無理のないことなのですね。

教師：そう、だからこそ、正しいとわかりきったことを道徳授業で考えることが大切なのだよ。

「わかっちゃいるけどできない」 「わかっちゃいるけどやめられない」ことを克服！

安田女子大学
心理学部現代心理学科
教授 竹田 敏彦

特定の価値観を押しついたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものです。これからの道徳教育は、いじめ問題への対応の充実などの問題解決的な学習を取り入れ、多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続けることが大切です。そのためには発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」が不可欠です。「正しいとわかりきっていることを本音と照らし合わせながら考え、議論すること」が、「わかっちゃいるけどできない」「わかっちゃいるけどやめられない」ことを克服できるようになるのです。



地球の仲間からの メッセージ

元大阪市天王寺動物園 園長 長瀬 健二郎

外来生物

近年、ヒトの生命、健康や日本固有の生物たちの生存に大きな影響を与える恐れのある外来生物の問題が大きく取り上げられるようになりました。昨年は南米原産のヒアリが注目され、その少し前ではオーストラリア原産のセアカゴケグモでした。さらにさかのぼると北アメリカ原産のカミツキガメ、魚ではブルーギルやオオクチバス、哺乳類ではアライグマ……。枚挙にいとまがないほどです。これらの生物たちからの被害を食い止めるため平成16年に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」が制定され、飼育や輸入等に関する規制が強化されました。

ところで、これらの生物たちは、現地でもヒトや他の生物への被害を防ぐための法律が作られているのでしょうか。答えは「ノー」です。では、なぜ日本でこのような法律を作らなければならなかったのでしょうか。

地球上の生物たちはそれぞれの生息地で長い年月をかけて進化してきました。その間、環境に適応できなかったり、新たに入ってきた生物に住む場所を奪われたり、食べられたりして滅びてしまったものもたくさんいます。こうして生き残ったものが、その環境特有の生態系を創りだしてきたのです。そこには特有の食物連鎖のピラミッドが確立され、絶妙なバランスが保たれ、安定しています。あるものだけが異常に増えてしまわないようにできています。そのバランスを崩すものが外来生物なのです。長い時間をかけて育まれてきた進化の歴史的背景なしに、ヒトが意図して持ち込んだり、意図せず知らないうちに持ち込んだりしてし



▲産卵を終え、穴を埋め戻したミシシippアカミガメのメス。卵からかえった子ガメは将来、日本固有のイシガメの脅威になることでしょう。

まった外来生物は、天敵になる生物の存在しない世界に、いわば降って湧いたようにして入り込んだのです。そして、その環境に適応できたものは爆発的に繁殖し、そこに住むヒトや生物の脅威となっているのです。

このような問題は日本だけではなく、世界各地で起こっていますし、日本原産の生物が海外で加害者になっている例もたくさんあります。ツル植物の葛はアメリカ南部の風景を変えたと言われる程にはびこり、忌み嫌われています。もとはアメリカの独立百年祭に日本から送られたものが野外で大繁殖してしまっただけのようです。ワカメは海外の港で増殖し、植物のイタドリはイギリスで在来植物の脅威になり、生態系に大きなダメージを与えるとして非常に警戒されています。

外来生物問題は、ヒトが安易に自然に手を加えてはならない、という天からの警鐘のように聞こえてなりません。

道徳と日文 これまでも、これからも



文部科学省検定済教科書
小学校道徳科用

小学道徳 生きる力 1～6年

- 各学年道徳ノート付き。
- 研究編、朱書・板書編、指導者用デジタル教科書、デジタルデータ集からなる教師用指導書完備！



「昇太師匠と考えよう」

日文 Web サイトにて動画配信中！

「笑点」の司会やドラマなどで活躍中の落語家、春風亭昇太師匠が伝統文化や友情について子どもたちと語り合います。

ただ今、日本文教出版Webサイトで「受けついでいくもの編」「落ちこんだとき編」など全5編を公開中。道徳の時間にクラスで視聴するなど、ぜひご活用ください。



動く!とくだ先生!

日文webサイトにて動画配信中!

日文Webサイトで好評連載中の道徳教育マンガを、モーションコミック(アニメーション)にしました。道徳教育について、より楽しく考えられるようになっていきますので、校内研修などにぜひご活用ください。



～お知らせ～

「平成30年度版 小学道徳 生きる力 教師用指導書」の付録「指導者用デジタル教科書 DVD-ROM」において、動作環境に一部、不具合がございました。32bit、64bit 対応と記載しておりますが、32bit 版のパソコンの環境では作動しない機能が一部ございます。32bit 版をご利用の皆様には、たいへんご迷惑をおかけいたしますこと、深くお詫び申し上げます。

なお、32bit 対応版がご入り用の方は、弊社ホームページの「ご要望・お問い合わせフォーム」よりお知らせください。

どうとくのひろば No.20

日文教育資料[道徳]

平成30年(2018年)5月15日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

デザイン:モスリングラフィック

CD33391

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690